

「比爪と海のつながり」羽柴直人氏が講演



本会主催である定期講演会は、12月4日赤石公民館において開催した。今回の講演会講師として、平泉世界異遺産ガイダンスセンター上席専門学芸員羽柴直人氏を招いて演題「比爪と海のつながり」の講演が行われた。

約40人の聴講者は、講師の新知見である「遠野」そして沿岸とのルートなどを熱心に聞き入っていた。その一部分を講演資料から抜粋して紹介します。

奥州藤原氏の世界は平泉、比爪で完結していない。これらの地域での新知見や、捉え方についての示唆を幾人からあった。特に注目すべきは「遠野」に係る新知見である。

気仙地方、釜石等の上閉伊郡沿岸部、宮古方面などの沿岸各地にへの道が遠野盆地から分岐している。遠野盆地を確保すれば、北上川流域から太平洋沿岸各地に達する交易路を掌握できる。

昨年(2021年)、遠野市で奥州藤原氏時代の遺跡が相次いで発見された。新発見の遺跡は居館遺跡と想定される安倍館遺跡と経塚が築かれた宮代IV遺跡である。

比爪と平泉で出土するかわらけは、原料粘土成分に由来してそれぞれの色調が異なっている。宮代IV遺跡のかわらけは赤橙色を呈しており、紛うことなく比爪産と認識できる。

中でも私が注目したいには、「気仙・比爪街道」の提唱である。気仙地方の沿岸部(陸前高田気仙川河口を想定)から気仙川をさかのぼり、流域の世田米、有住を經由し蕨峠を越え、遠野盆地南側の来内を通り遠野へ、そこから大迫を経て比爪というルートである。

陸前高田気仙川河口付近は砂浜が発達し、中世以前の湊の適地であるラグーンであったと推測される。この状況を考慮すると、気仙湊と比爪は直結していた可能性は高い。

【「比爪と海のつながり」講演会におけるアンケート調査の自由記入あった一部を紹介】

- ・比爪～気仙ルートなどの所見が確信に変わっていく様子に触れ、今後の展開がますます楽しみになりました。(男性・年齢記載なし)
- ・今までと異なる新しい考えを聞きしました。新しい謎が広がりました。(男性・80代)
- ・遠野が比爪と関係があったとは…！。斉藤利男(弘前大学名誉教授)の「予言の書」論、発掘しなくても予測する学もスゴイ！。(男性・70代)
- ・遠野を經由して沿岸、考えれば当たり前のことなのですが、改めて、もっと勉強したいと思いました。(女性70代)
- ・新しい発見があり、まだまだ広がりがあることに楽しみを感じました。(女性・70代)
- ・またまた最新の知見を聞いて楽しかった。住田の東峰山とか衝撃です。(女性・50代)

《《《R5年1月行事予定のお知らせ》》》

令和5年 1月18日 (水曜日)	第136回 月例発表会	午後7時～午後9時 赤石公民館 講義室 発表者 宮 良 男 テーマ「日本の仏教⑰ 臨濟宗」 発表者 平井 和 夫 テーマ「吾妻鏡に見る北条義時④」
------------------------	----------------	--

8百年前の樋爪館周辺をCGで 町芸術祭に出品

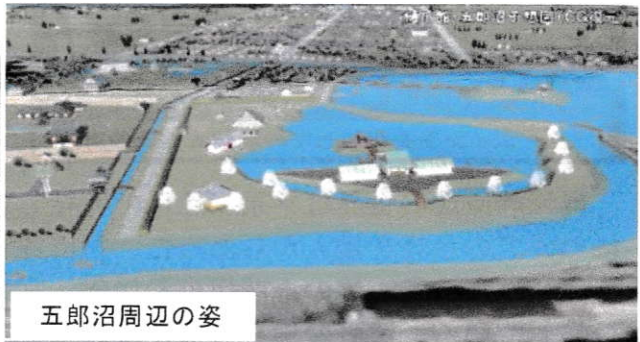
もしも今現在、樋爪館と五郎沼の遺跡が存在するならば、こんな感じなのかな・・・という勝手な妄想で制作してみました。

その根拠としたのは、ひづめ館懇話会設立10周年記念誌に掲載された遺構配置図や模式図、地積図であり、また、これまで続けてきたこの地域の多くの発掘調査報告書も参考にしています。当時はこのような風景が広がっていたのだろうと夢が膨らみます。

(STUDIO OHHO 代表 八重嶋 靖)

【第56回紫波町芸術祭展示部門(令和4年11月4日～6日・於町中央公民館)に出品展示された映像作品を著作者よりの許可を受けて転写・加工しています。】

樋爪館・五郎沼予想図 (CG復元)



五郎沼周辺の姿



中島の東屋と寺院

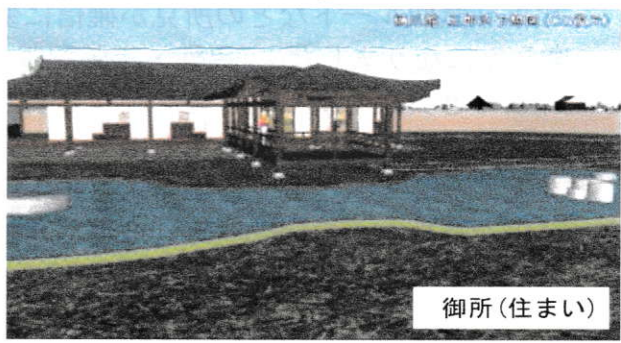
比爪は平泉に匹敵する都市

発掘調査等を基に想像した樋爪館遺跡、五郎沼周辺とその東に位置する南日詰大銀遺跡、小路口遺跡、北上川河岸における風景が色鮮やかに映し出されている。

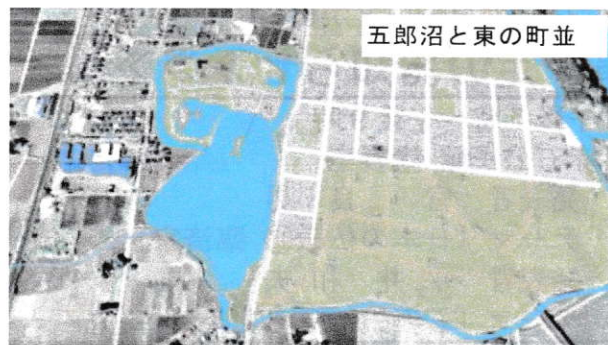
(約4分間の映像)



居館の塀と門



御所(住まい)



五郎沼と東の町並



現在の五郎沼の風景